

YWVOB 会 会報 No.57

横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会

<http://ywvob.com/>

2014 年 9 月 20 日発行

～ 57号の目次 ～

- | | |
|--|---------------------------------|
| • YWV OB 会長ご挨拶・・・・・・・・・・ 1 | • 自由投稿 |
| • 2015 年度 OB 総会案内・・・・・・・・・・ 2 | • 第 14 回 5 期の会 懇親会便り・・・・・・・・ 12 |
| • 田中先生のご逝去を悼む・・・・・・・・ 3 | • ヒマラヤ・トレッキング紀行・・・・・・・・ 13 |
| • 2014 年第 2 回役員会報告・・・・・・・・ 5 | • HCD・友の逝去・同期会・・・・・・・・ 18 |
| • 2014 年第 3 回役員会報告・・・・・・・・ 6 | • 夏合宿壮行会報告・・・・・・・・・・ 19 |
| • 第 40 回 OB 山行(蓼科山・車山) 報告・・ 7 | • 現役部員の活動紹介・・・・・・・・・・ 20 |
| • 第 41 回 OB 山行
(宝剣岳・木曾駒ヶ岳) 案内・・・・・・・・ 8 | • OB 会費納入のお願い・・・・・・・・・・ 23 |
| • 苗名小屋便り・・・・・・・・・・ 9 | • 編集委員会から(1)(2)・・・・・・・・ 17、23 |

■ YWVOB 会長ご挨拶

会長 鈴木弥栄男 (9 期)

岡倉天心著『茶の本』を今読んでいる。著者は日本人でありながら、どういう訳か英文が原本であり、逆に翻訳がなされている。私は第 5 章・藝術鑑賞の、道教徒の物語「琴削らし」のところがお気に入りである。

一方、本学で YNU 国際シンポジウム 2013「現代に生きる岡倉天心」を開催し、平成 24 年度卒業式で学長が岡倉天心について述べていることを知った。学長曰く《これからのボーダレス社会のなかで、皆さんが中核となって活躍するためには、岡倉天心のように挑戦的でグローバルな行動力と、その国の文化を理解し、語れることが大切です》自然が好きでワンゲル部に入り活動してきている私たち、OB&OG になると日本の文化に興味移って行く感じを持っている。すべてのことに関心や好奇心や興味を抱くことが、元気に生きてゆく基本ではないだろうかと思っている。

YWV OB 会ホームページから 2014.8

「奥穂高岳から槍ヶ岳縦走：北上走破記録」
65 歳になるワンゲル同期二人が、人生最後のチャンス到来かと信じて、果敢に挑戦し、二人の思いを叶えるように天候も微笑んでくれたようである。多くの写真が掲載され、臨場感豊かな登山記録である。動画があれば文句ないと思うが、名文と素晴らしい写真を是非ゆっくりお楽しみ下さい。

(編集委員会の推薦：上記名調子の案内で始まる臨場感溢れる走破記録をホームページにて是非ご覧下さい)



2015 年度 YWV OB 総会招集ご通知

会長 鈴木弥栄男

日時：10月25日（土）10:00 開始

場所：横浜国大 常盤台キャンパス

経済学部講義棟 1 号館 102 講義室

議案：活動報告、決算報告、予算案審議、新入会員承認等

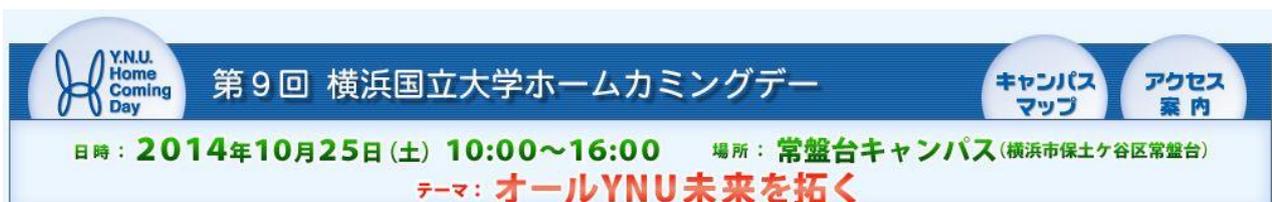
総会開催日はすでに恒例となっているようにホームカミングデー開催日と重なります。OB 総会後には昨年同様ホームカミングデーのイベントの一つとして「ワンゲル企画展」を経済学部講義棟 1 号館 100 講義室にて実施予定です。こちらにも是非、足を運んでください。

総会終了後はホームカミングデーの各種企画に参加いただき（メイン講演は 11 時半から）、さらに第一食堂で開催される交流会には YWV 参加者が集まることのできるコーナーを用意していただける予定です。交流会参加者には OB 会から現金での補助があります。

交流会のメとなる YWVOB 会のみはるかす斉唱は、昨年から公式プログラムとなりました。YWVOB 会に限らず、全参加者を呼び込んでみはるかすを歌いましょう。

横浜国立大学ホームカミングデーの URL はこちら → <http://homecoming.ynu.ac.jp/>
（交流会にはホームページの解説または各同窓会のご案内に従ってお申込みください）

総会参加、会費納入、名簿用住所確認等の手順は別途会報同封のお願い、メール、ホームページ等でご案内致します。ご協力よろしくお願いたします。



The banner features the YNU Home Coming Day logo on the left, which includes a stylized 'H' and the text 'Y.N.U. Home Coming Day'. To the right of the logo, it reads '第9回 横浜国立大学ホームカミングデー'. On the far right, there are two circular icons: one labeled 'キャンパス マップ' (Campus Map) and another labeled 'アクセス 案内' (Access Guide). Below this information, the date and time are given as '日時：2014年10月25日（土）10:00～16:00', and the location as '場所：常盤台キャンパス（横浜市保土ヶ谷区常盤台）'. At the bottom, the theme is stated as 'テーマ：オールYNU未来を拓く'.

■ 田中先生のご逝去を悼む

山川 隆 (12期)

6月14日、ワンダーフォーゲル部第二代部長であった田中先生がご逝去された。89歳であった。第二代部長としての田中先生の在任期間は1966年～1979年・・・思えば先生にはご迷惑の掛け通しだったと反省する。田中先生ご自身日本山岳会の会員であり、山に登る先生ということで就任いただいたのではないかと推測する。田中先生に限らず、先生をお願いしての、大学のクラブとしてのワンダーフォーゲル部の“部長”とは一体何であるのか。精神的な支柱となり、平穏な時ならばもっぱら「ハレ」の場に出させていただくのがその役目の主要部分であったはずである。

1960年代の最後の数年にはワンダーフォーゲル部では部の分裂、大学全体では大学を封鎖しての学園紛争があった。我々は学園紛争が一応の終結をした1970年に活動を再開したが、田中先生の在任期間中となる1970年に2件(春合宿九州隊事故、丹沢三峰歩荷訓練遭難事故)、さらに1976年に2件(北アルプス・奥穂高PW遭難事故、谷川岳一ノ倉沢滑落事故)、公式行事であったか否かは別に、ワンダーフォーゲル部の史上に残る大きな事故を起こしてしまった。

責任はすべて我々にあるにも係わらず、田中先生には事故のたびに部長として外部との接点に立っていただいた。自分が60代も半ばを過ぎる中高年となって思い返せば、学生時代我々がいっばし自分たちで動いているつもりでも、いかに田中先生にお世話になっていたことか。警察、消防署、行政窓口、救助関係者、家族・遺族関係など、先生の本来の研究活動とは関係のないところで、“部長”の顔で随分と動いていただいた。1970年夏、うだるような暑さの丹沢の麓の町々をあちこちお詫び、報告、依頼、御礼に回っていただいた。1976年春の穂高のときも同様となった。田中先生は事故を起こした我々に苦言を呈することなく、我々がそこから何を学びとるかは我々に任せて下さった。そして、もっぱら外部から“部長”の顔に求められたことを淡々とこなしていただいた。思うにこれは田中先生の山に対するスタンスでもあったのであろう。

かつて「歩荷訓練事故報告書」に田中先生の文章を頂戴した。「参而不雑」(サンジテマジラズ)。「あと一息と力をふりしぼり登りつめた尾根から後を振り返ると、・・・(略)・・・我々は黙々と歩きひたすら歩く。一步一步に自分を高め、一步一步に自分のすべてを賭ける。之ほどの充実を実人生に持続経験することは、我々凡人には至難であり、山登りにたとえられるほどに遙かに振り返る人生の山並みを越え来るとは稀であろう。・・・(略)・・・生を讃え死を悼むのは人間の通性である。然し真に死を悼む為には、讃えるべき生の充実を持たねばならぬ。それが彼と山行を共にした友人の、彼への心からの手向けではないだろうか。・・・(略)・・・若人



よ、真剣に生きよう。生きることはすばらしいことだと感謝できる人生を持って欲しい。・・・(略)・・・」

「YWV50年の歩み」にも田中先生の文章をいただいた。「ぬちど(du)たから」。これは沖縄戦で尊い命を数多失った彼の地の古い言葉で「いのちはたから」の意である。部長退任から30年近く経ち、部が50周年を迎えるに当たり、田中先生は再び命の、生きることの大切さを説かれた。



1968年10月 苗名小屋落成式①

田中先生は大学卒業後5年間フランス、イタリアに留学された。アルプスの雪に惹かれ、その間にモンブランにも登頂された。留学時代から続くヨーロッパの研究者とのお付き合いのことが「舞踏会の手帳」と題し、1972年の「スカイライン」の部長の言葉に収録されていることを1期嘉納さんに教えていただいた。また、1968年苗名小屋落成式で挨拶するまだ若い田中先生の写真、1997年にシニアOBの集いに参加いただいた時の写真を2期吉野さん、4期郡司さん、9期鈴木さんから頂戴した。ワンダーフォーゲル部と田中先生

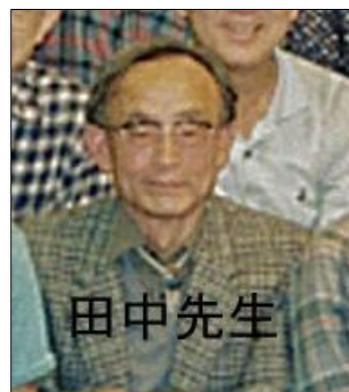


1968年10月 苗名小屋落成式②

先生の間にはこのような「ハレ」に属する場面もあったことは本当にうれしい。

部長の田中先生と一緒に山に登ったことは一度もない。卒業後、また田中先生の部長退任後もご一緒する機会はなかった。執行部学年のときの2件の事故と、卒業してからの2件の事故を通じて、お付き合いの土台が固まった。固まったまま、年々の年賀状のやり取りとプラスアルファのコミュニケーションが続き、田中先生とのコミュニケーションは本年（2014年）2月のメールのやり取りが最後となった。

田中先生にはいくつもの言葉を残していただき、またそれが形となった先生の行動の記憶を我々に残していただいた。田中先生のご逝去に当たり、いま再び先生が我々ワンダーフォーゲル部に残した言葉と記憶に再会し、その深さを噛みしめるとともに、先生のご冥福を祈る次第である。



第9回シニアOBの集い 1997. 11. 8. KKR片瀬

■ 2014年 第2回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2014-4-19 (土) 14:00 からミューザ川崎にて第2回役員会が開催された。

【出席】 嘉納(1)、吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、山川(12)、榎本(12)、白須(17)、小浜(17)、堀内(18)、山口(18)、笛木(19)、安武(20)、石垣(20)、西田(20)、白木(21)、横溝(21)、山崎(22)、木村(23)、松本(29)、親跡(34) <現役>無し 以上20人

【内容】

1. 各委員会報告

①総務 (山川副委員長)

- ・終身会費制度については次回総務委員会から提案。
- ・ダイアゴナルKIT (KIT) で設定した名簿管理システムをデモ、報告。
KIT のセキュリティも確認できたので、現在の名簿台帳は残しながら KIT 加入者の更新名簿情報を台帳に取り込むなど今後 KIT を活用する。KIT 加入者間は個人情報に適宜相互に確認できる。なお、名簿更新時はID管理として更新依頼者は新旧のアドレスを管理者に提示する。

②OB 小屋 (榎本委員長)

- ・5/10-11 小屋で現役が新人歓迎予定。足の確保でOBに依頼があり、調整中。

③編集 (石垣委員長)

- ・次回57号は9月発行の予定。

④OB 山行 (山口委員長)

- ・次回は5/17 (土) 40回記念山行で蓼科山へ。40回記念につき記念品代2万円を拠出することを決定。

⑤ホームページ (吉村委員長)

- ・アクセス数など状況報告。

⑥部史編纂 (白木委員長、嘉納委員)

- ・10月メドで約8千件のワンゲル活動の画像情報とワンダリング番号との紐付けを行う。
- ・歴史館の現役への解放は実施済み。

⑦会計 (吉野幹事)

- ・預金口座の名義を変更するために、会則第1条OB会の住所を会計幹事の住所に変更する(総会で会則を改正する)。

⑧現役からの報告 (西田)

- ・新人は現在3人。4/19 大山、三峰山で新人歓迎。5/10-11 で新人歓迎小屋ワンの予定。

2. 次回役員会予定

日時： 2014年7月12日 (土) 14:00~17:00

場所： 川崎産業振興会館

以上

■ 2014年 第3回役員会報告

幹事長 西田雅典 (20期)

2014-7-12 (土) 14:00 から川崎産業振興会館にて第3回役員会が開催された。

【出席】 吉野(2)、吉村(3)、鈴木(9)、山川(12)、白須(17)、山下(17)、山口(18)、笛木(19)、安武(20)、石垣(20)、西田(20)、白木(21)、横溝(21)、山崎(22)、伊藤(23)、松本(29)、小野(34)、親跡(34)
<現役> 3年中山(56)、1年 大西(58) 以上 20人

【内容】

1. 各委員会報告

①総務 (横溝委員長、白木副委員長、山川副委員長)

- ・ダイアゴナルKITをOB会名簿用に補完的に活用中。現時点で会員582人のうち130人がKITに名簿リンク成立済み(内、相互リンク90人)。利便性が高いので引き続き活用拡大を工夫する。また、HPのトップページにも入れることを検討。
- ・現役夏合宿壮行会は現役の希望を確認し、実施を検討する。
- ・終身会費制度は討議したが、積極的な導入目的が見いだせないため検討を中止する。

②OB小屋 (松本委員)

- ・公務での交通費などの補助は制度化済み。今後の検討課題として、現役の小屋活動時のOBによる車の提供への補助も対象にすべきではないか。また、小屋の維持と現役活動支援の意味で、現役が雪下ろしや小屋整備などの仕事をした場合は現役に対価を払うなど仕組みを検討し次回総会で討議する。

③編集 (石垣委員長)

- ・会報57号は8/22原稿締切り、9/7入稿、9/20発行。計報(2名)を掲載。会費納入依頼も同封。

④OB山行 (山口委員長)

- ・次回は10/18(前夜泊)宝剣岳、木曾駒ヶ岳。
- ・2015年度山行計画案は42回1/31北高尾、43回5/23小野子山、44回10/17霧積温泉・鼻曲山。

⑤ホームページ (吉村委員長)

- ・従来70アクセスであったが今年に入り大幅に拡大している。会報公開版、現役スマホ版の紹介。

⑥部史編纂 (白木委員長)

- ・部史データ用に加工ソフトを購入する。また、写真、文章の画像化、データベース化は手間暇がかかるので、現役の力も借りてアルバイトの形で協力してもらうことを検討する。

⑦現役からの報告

- ・部員数は1年18人、2年3人、3年7人の計28人。今年から自転車活動も加え、山行時のアプローチで自転車を活用するなどしている。夏合宿は8月1日から北海道(トムラウシ、大雪山)。
- ・部員が急増し装備品充実が必要だが、部費と大学からの支援では足りないため、OB会への支援要請があった(約10万円)。OB会役員会としては審議の上、承認した。予備費にて対応したい。

2. 次回OB総会の件 (10/25(土) HCDと同日開催)

- ・総会議事: 活動報告・計画審議、予算実績報告・監査報告・承認、予算審議、役員改選、会則変更、60周年記念事業、小屋の将来像、期別幹事など
- ・HCDでのYWW企画展は今年も実施することで確認。前回の展示物を軸にするが、新しいアイデアも検討する。当面は事前準備のため、9/7(日)に集合する。また交流会でのYWW主導による「みはるかす」も今回も正式に実施する(安武さんエール)。

3. 次回役員会予定: 日時: 2014年10月4日(土) 13:00~16:30

場所: ミューザ川崎(川崎駅徒歩1分)

以上

■ 第40回 OB記念山行（蓼科山・車山）報告

OB山行副委員長 小野恵美子（34期）

〔日程〕 2014年5月17日（土）～5月18日（日）

〔参加者〕 嘉納(1)、吉田(1)、吉野(2)、佐木(8)、榎本(12)、山川(12)、鶴飼(14)、小口(14)、狩野(14)、吉田(14)、中島(15)、小浜(17)、壺井(18)、向井(18)、山口(18)、西田(20)、白木(21)、親跡(34)、小野(34) 参加人数計19名（1日目参加 17名、懇親会参加 16名、2日目参加 15名）

〔コース〕 1日目： 七合目登山口―將軍平―蓼科山―將軍平―七合目登山口

ホテル清明荘にて懇親会、宿泊

2日目： 車山肩―車山―蝶々深山―八島湿原

2000年にスタートしたYWVOB山行も40回目を迎えました。実に14年の歳月。今回は記念山行として蓼科まで足を延ばし、百名山山行に懇親会、さらに翌日の爽やかなイクと、てんこ盛りの楽しい行事となりました。

1日目、朝からお天気は上々。マイカーに分乗し登山口に集合。道中も八ヶ岳や南アルプスの山々が見えて、展望への期待が高まります。出発後早々に残雪の道となりアイゼンを装着。雪の白と空の青が本当に美しい。

將軍平で昼食。山頂手前のロープが張られた直登（帰りは直降）はスリルを楽しみながら一気に標高を稼ぎます。山頂は広大な岩の原で、雪も無くアイゼンを脱いで散策。少し雲が出てきましたが、360度の展望を満喫しました。登山口から3時間足らずで標高2500mを越え、高山気分を楽しめるたいへんお得なコースです。



蓼科山山頂にて



蓼科山からの眺望

雪道の下りは快適で、15時過ぎには元の登山口に到着。初日の閉会式を終えて、日帰り参加の1期、14期の吉田さん両名と山川さんが帰られました。



OB山行40回を祝って乾杯



宴会後記念撮影、この後二次会へ

白樺湖畔の晴明荘がこの日のお宿。宴会場も二次会の集会部屋も提供してくれました。西田さん、白木さんが加わりお楽しみの夕食・宴会。吉野さん作成の「OB 山行の歩み」のスライドで 40 回の軌跡を懐かしく振り返りました。40 回中 31 回ご参加の小口さんに賞状・賞品を授与。いつも遠方から会を盛り上げていただき本当に感謝です。同数回ご参加の 11 期安藤さんのご都合により欠席でしたが、後日お渡しいたしました。今頃はカメルーンでご活躍です。裏方ながら私もサプライズで最多参加賞を頂戴しました。恐縮です。くじ引きと親跡さん撮影の当日の写真を楽しんだ後、一旦閉会。食後は場所を変え、歌声喫茶よろしく山の歌を合唱。先輩方の現役時代はこんなにも山に歌声が響いていたのですね。名曲多し、伝えていくべき文化です。音頭を取ってくださった向井さんは翌朝お仕事でお帰りに。

2 日目も快晴でハイキング日和。二日酔いの身体にも優しいコースで、それでいて展望は抜群。車山、蝶々深山では北アルプス、八ヶ岳、富士山、南アルプス等々・・・一か所でこんなに多くの山々が見渡せる場所は他に無いのではないのでしょうか。あまりにも贅沢。時節柄、水のない八島ヶ原湿原の脇を歩き、山行は終了。

2 日間とも好天・展望に恵まれ、40 回記念を祝福してくれているようでした。



蝶々深山山頂で



八島湿原で記念撮影、閉会式

14 年の歳月で世の中の移り変わりはめまぐるしいばかりですが、山と山仲間の笑顔は変わりません。最近の OB 山行はコースもバラエティーに富み、参加者も増えています。これは山口委員長、小浜副委員長のご尽力によるもの。このところ晴天続きなのも晴れ男パワーかもしれません。以前 YWV に所属していて自然を愛することだけが共通点。年齢・性別・職業・経験問わず、山ではどなたでもすぐに仲間になれます。初参加の方、大歓迎。40 回を重ねた OB 山行、これから 50 回、60 回、20 年、30 年と続けていきましょう。

■ 第 41 回 OB 山行（宝剣岳・木曾駒ヶ岳）案内

OB 山行委員長 山口貢三（18 期）

今回は中央アルプスをめざします。山頂部のこの時期は紅葉が終わり静かに冬の訪れを待つ頃となります。それでも 3000m 級の威容には必ず感動をもらえるでしょう。

初参加の方、お久しぶりの方、大歓迎！多くの方の参加をお待ちしています。

〔日 程〕 2014 年 10 月 18 日（土）

〔行 先〕 宝剣岳（ほうけんだけ・2931m）、木曾駒ヶ岳（きそこまがたけ・2956m）

〔地 図〕 昭文社 山と高原地図 40 木曾駒・空木岳

〔集合場所・時間〕 菅の台バスセンター（駒ヶ根市） 6 時 30 分

〔交 通〕 ○マイカーに分乗の場合、17 日 20～21 時頃出発

（出発地はマイカー次第のため別途連絡します）

前泊地（22～23 時着）Hotel AZ 山梨甲府南 IC 店（男女別 2 人部屋）5～6 時間仮眠

18 日菅の台バスセンター（駐車場）6：20 着

○都合がつかない場合は次のコースをお薦めします。

新宿から高速バスで「駒ヶ根市」下車、宿泊は各自で手配願います。

※駒ヶ根ユースホステルが菅の台バスセンター至近で便利です（チェックイン 22 時まで）。

[行程] 10月18日 8:30 千畳敷→9:20 乗越浄土 9:30→10:30 駒ヶ岳 11:00→11:45 宝剣山荘
12:15→12:40 宝剣岳 12:50→13:30 極楽平 13:40→14:00 千畳敷
(歩行時間 4 時間) 体★ 技・危★★ (宝剣岳の岩場)

[参加費] 山行費 500 円

交通費 (往復) マイカー 約 5~6 千円、または高速バス (新宿~駒ヶ根市) 7 千円
バス・ロープウェイ 3,510 円 (15 人以上団体割引を利用)

前泊 (素泊り) 約 3,600 円

[持ち物] 朝食、昼食、水、おやつ、雨具、防寒具 (帽子、手袋)

[申込み] マイカー乗合で前泊希望の方は 9 月 30 日迄に OB 山行委員までご連絡ください。

交通希望 ①マイカーを出せる、同乗可能 (ご協力願います)

②最寄駅からマイカー乗合希望

③個別に直行

OB 山行委員 小浜一好 (17 期) 山口貢三 (18 期) 小野恵美子 (34 期)

連絡先メールアドレス : sanko-ywvob@ywvob.com

配車は 10 月 5 日頃までに参加者へ詳細を連絡予定です。

[その他] 参加者は自己責任が原則です。ハイキング保険等は各自で加入してください。



■ 苗名小屋便り

OB 小屋委員長 榎本吉夫 (12 期)



第 3 回雪下ろしを 3 月 21 日 (金) ~ 23 日 (日) の連休に実施しました。年度末の忙しい時期に、8 期佐木さん、11 期安藤さん、30 期笹倉さん、34 期相当櫻井さんの参加をいただきました。前日の数十センチの湿雪の降雪に、全くスキーが滑らず小屋入りにちょっと (?) 苦労しましたが、今



シーズン最後の雪下ろしが完了、また造林小屋の仮補強も実施しました。

5月の連休は3日(土)～5日(月)に安藤さん、笹倉さん、34期小野さん、現役56期畑さん、中山さん、新入生幸也さん、榎本が残雪の小屋に入りました。プレ小屋開け(井戸掘り、水道開通)を実施し、現役はサ



5月の残雪の山小屋

イクリング行、安藤・小野・榎本は北信五岳の斑尾山登山等を楽しみました。また、現役組は10日、11日の小屋新歓の準備作業を実施しておりました。その新歓には、現役12名(内、新入生6名)と鈴木会長、17期山下さん、29期松本さん、笹倉さん、櫻井さんOB5名の総勢17名が小屋入しました。現役の小屋利用が高まりうれしい限りです。また、現役の参加のための輸送力アップのため、鈴木・松本・笹倉・櫻井各位には自車で参加いただきありがとうございました。今後も現役部員のうれしい増加で小屋への足の確保のために、OB各位のご協力をお願いいたします。



大先輩に人生相談を受ける畑くん



バーベキューを楽しむ新入生

5月31日(土)、6月1日(日)の山菜採りには、5期諸角夫妻、高須夫人、安藤さん&ご友人丹野さん、14期小口さん、15期中島さん、松本さん、笹倉さん、(現役)畑さん、58期(新人)福山さん、佐藤さん、眞壁さん、敷井さん、小林さん、塩崎さん、大西さん、榎本の18名の参加、天気も2日とも晴天に恵まれて、山菜採りや日本海への自転車ツアー、仙人池・笹ヶ峰散策、薪割りチャレンジ、恒例のバーベキュー等、各々楽しみました。特に現役が8人も参加、内7人が新人で今後の小屋利用の活発化を期待したいです。

7月5日(土)、6日(日)に、現役の小屋新歓2次を笹倉車とバスを利用して実施しました。以下はその様子です。



焚き火に興じる現役



お猿さんも現役歓迎!



草刈り機の取扱指導



仕事？が終わればバーベキュー



草刈り開始！



ご苦労さま、乾杯！

7月19日(土)～21日(月)の小屋行事は現役が試験前等で忙しく、OB各位も都合がつかず榎本ひとりで小屋入り、雨模様でメインの草刈りは小屋玄関前と林道からの入口の駐車場エリアのみ実施しました。20日(日)午後から？十年振りに高谷池へのテント山行を執行、翌21日(月)早朝に火打山に登り、雲海上に北アルプス全山展望を満喫して昼に小屋へ戻り、夕方下山しました。8月9日(土)、10日(日)には、15期萩生田さんが十数年振りで小屋へ一人で入りました。生憎の天気でしたがOB活動再開のきっかけになったようです。8月12日(火)～15日(金)に、現役の夏合宿の流れで北海道から自転車南下して現役畑さんが小屋入り、笹倉車同乗で現役百合野さん、尾崎さんと新OB54期谷口さん、同軍司さん(バイク)、笹倉さんの計6人、14日(木)～16日(土)には18期福田夫妻&同岡田夫妻、15日(金)、16日(土)に松本さん、16日(土)、17日(日)に佐木さん、榎本が小屋入りしました。



カラマツの伐採



薪割り！



今日のごちそう！



焼き火準備



18期の大先輩と語らう現役56-8期



恒例の焼きそばとますの姿焼き

9月にも現役小屋利用が計画されており、部員増加にともなう小屋活用の拡大を期待しています。OB各位の一層のご協力をお願いします。そして小屋に来てください！

10月11日(土)～13日(月)には恒例のきのこ採りを予定しており、紅葉の妙高にOB各位の参加をよろしく！



5月斑尾山頂にて 小野さん、安藤さん



番外！写真 小屋の主とのご対面

自由投稿 「第14回5期の会 懇親会便り」

向井久弥（5期）

2001年以來毎年1回泊りがけの懇親会‘5期の会’を開催しています。今年は伊豆高原にて一泊二日で開催されました。

常連メンバーが全員参加できたため、昨年の三浦半島を3名、7年前の上高地を1名上回る過去最多の22名になる盛大な会でした。殆どが関東圏からですが、遠距離組では長崎佐世保から矢島夫妻、大阪豊中から三宅夫妻が参加しました。

本会は夫婦で参加する方が大勢いるのが特徴です。亀井夫妻、中村夫妻と諸角夫妻が5期同志であることが、夫婦での参加をしやすくしているのではないのでしょうか。

今回のプログラムは次の通りでした。

2014.5.26（月）

- 13:50 伊東駅近くの東海館に集合
- 14:00 ~16:30 伊東市自然歴史案内人会にガイドを依頼し、東海館スタート組と東郷記念館スタート組に分かれて見学
- 17:30 赤沢温泉ホテル到着
- 19:00 ~21:00 夕食 海の幸膳 or 会席の選択
- 21:00 ~23:00 二次会

2014.5.27（火）

- 9:00 ホテル出発
- ~11:30 城ヶ崎、蓮着寺見学
- 11:30 ~12:15 そば屋で昼食
- 12:30 ~14:15 大室山のお鉢めぐり
- 15:00 伊東駅にて解散

予報では初日が曇り、二日目曇り時々雨でしたが、時々雨が初日の夜から二日目の明け方に早まったおかげで雨に降られることなく、大室山の山頂では雲の切れ目から富士山が現れラッキーでした。

東海館、城ヶ崎と大室山は伊東八景を構成する代表的な場所なので、ご存知の方も多くいらっしゃると思います。それに比べ、東郷記念館と蓮着寺は穴場的な存在です。

特に日蓮上人が流罪となって、由比ヶ浜から伊豆に着いたことに因んで後に建てられた蓮着寺には天然記念物である樹齢千年、国内最大のヤマモモの木のほか、ボケ防止の地蔵があります。仲間の年が年だけに予想通りウケていました。また成就の鐘も生涯初めて鐘楼というものを撞いたという仲間もいて、ウケていたのは予想外でした。

仲間の健在ぶりが確認でき、楽しい5期の会でした。22名の参加者は写真の通り。



後列) 谷合 諸角 向井 亀井 中村 谷合 時田 喜多村 羽島 矢島 向井 金子 羽島
前列) 諸角 高須 三宅 金子 中村 亀井 時田 三宅 矢島

1 はじめに

山好きにもいろいろな程度はあると思うが、ヒマラヤに興味がない人は少ないのではないだろうか。三浦雄一郎氏の世界最高齢エベレスト登山に日本中が沸いたのも記憶に新しい。私にとってもヒマラヤは長年の憧れであった。勿論ピークを目指す体力、技量、そして財力はないが、近くに行って実際に仰ぎ見たいと願っていた。そんな折、職場の同好の士にヒマラヤ・トレッキングのリピーターがいたことで、一念発起して今年の年末年始、9連休を利用しヒマラヤ・トレッキングに出かけた。行程表と概念図を示すが、興味ある方がおられたら詳細はお問い合わせ願いたい。

2 ヒマラヤの山々

ヒマラヤといえば代表はエベレストであろう。しかし、広大なヒマラヤ山群のトレッキングとしては主にエベレスト(8848m)、アンナプルナ(8091m)、ラシトラン・リルン(7225m)、マナスル(8163m)の主峰を有する4つのエリアに分けられる。今回はその中で一番の入門編であり、年末年始の短い期間で楽しめるアンナプルナエリアに出かけた。

ヒマラヤの玄関口、ネパールの首都カトマンズには中国経由で入った。その場合、航空機のフライトスケジュールの関係で中国に1泊しなければならない。

ただし、恩恵もある。中国からネパールに飛ぶときヒマラヤの上空を通るのでヒマラヤの山々が窓から一望できるのである。そのためには窓側の座席の確保が必要、それもエベレストとの位置関係から進行方向右側が不可欠なのを調べて、夏頃に予約する際、4名の同行メンバーが窓側に一列の席を確保し、顔を窓にくっ付け写真を撮りまくった。世界の屋根は迫力満点であり、人を寄せ付けない感が半端ではない。(写真1)

カトマンズからトレッキングの基地であるポカラまでは国内線のプロペラ機。ヒマラヤを同じような高度で眺めながらの遊覧飛行みたいな空の旅を楽しむ。

日本人が初登頂を果たしたマナスル、これから向かうアンナプルナの峰々、ダウラギリ、マチャプチャレと次々に神々しい山々に心奪われていく。(写真2)



(写真1) 左側エベレスト、右側マカルー



(写真2) アンナプルナの山々

行程表

月日	行 程	宿泊地
12/28	成田⇒北京経由⇒成都（中国国際航空）	成都
12/29	成都⇒ラサ経由⇒カトマンズ（中国国際航空）⇒ポカラ（国内航空）	ポカラ
12/30	ポカラ 900m⇒ベニ 820m⇒タトパニ 1190m⇒シーカ 1980m（チャーター車）	シーカ
12/31	シーカ 1980m⇒ゴレパニ 2850m（徒歩）	ゴレパニ
1/1	ゴレパニ 2850m⇔⇒プーンヒル 3200m 往復⇒タダパニ（徒歩）	タダパニ
1/2	タダパニ⇒ガントルン 1940m⇒キムジェ（徒歩）⇒シャウリバザール経由⇒ポカラ（チャーター車）	ポカラ
1/3	ポカラ（国立山岳ミュージアム見学）⇒カトマンズ（市内観光、買物、民族舞踊見学）	カトマンズ
1/4	カトマンズ（市内観光）⇒成都（中国国際航空）	成都
1/5	成都（パンダ飼育研究基地見学）⇒北京経由⇒成田（中国国際航空）	

m表示はすべて標高



3 トレッキングの宿、食事など

冬季のヒマラヤというと極寒の地を想像しがちであるが、トレッキングレベルでは日本より緯度が南であるため、むしろ暖かい。歩行中は長袖のシャツ1枚で十分快適である。日本の3月末くらいの感じか。ただ、山の夜明け前は寒い。宿は簡易なロッジといったところでツインの部屋は板敷のベッドが二つあるだけのシンプルなもの。

(写真3)

持参した寝袋に、お湯を水筒に注ぎ湯たんぽ替わりにしたものを入れて寒さをしのぐ。これが快適でお勧めであった。食事は伝統のダルバートと呼ばれる豆のカレーが基本。

現地の人はカレーとご飯を指先で器用に混ぜあわせて一粒残さず食べるのだが、これが真似てもうましくない。ということで旅行者はスプーンとフォークでいただく。そのほかロッジによっては、肉料理やイタリアンもある。特にゴレパニのロッジでは、ローストチキンを炎を上げたままサービスしてくれるのには感激した。ネパール料理は味もマイルドで日本人好みといえる。また、マサラティーと呼ばれる生姜が効いたミルクティーが気に入った。

トレッキングの休憩時には沿道の茶店に入ってよく飲んで一息入れた。お風呂はロッジでシャワーならば利用できる。ただし、小さな湯沸かし器で湯量もごく少ないし更衣室もない、汗を流すだけである。でもさっぱりするし有難い。トレッカーは欧米人が多いようである。ひと頃は日本人が多かったようだが今はドイツ人が一番多いそう。先生に引率された学生らしきグループが目立った。



(写真3) ロッジの様子

4 初日の出

今回、トレッキングのハイライトは、元日にヒマラヤで初日の出を拝む、である。大晦日は日本から持参したマルちゃんのためきそばで年越しを過ごした。

元日の夜明け前に早起して、ロッジから1時間くらいの展望地プーンヒルに向かう。前日、雪がぱらつき懸念された天気は絶好のコンディション。満天の星が輝き、天の川もはっきり見える。星一つ一つが大きく感じ、北極星は1等星以上に光っていた。

プーンヒルでは2~300人の各国のトレッカーが集合し日の出を待つ。だんだん夜が明けるとともにダウラギリ、アンナプルナ、マチャプチャレが全貌を現す。3000mの地から間近に観る8000m級の山々の迫力。皆、展望台に上り、写真を撮りまくっている。そして日の出。空がオレンジ色に染め上げられ、山肌も日に映えてヒマラヤ壁を鮮明に浮かび上がらす。(写真4)



(写真4) 初日の出に照らされたアンナプルナ・サウス

今年は午年であり私自身、年男として節目の年に望みがかなって幸せを感じた。

5 同行者とガイド

同行者は私を含めて、男女2名ずつの4名。2名は職場（横浜市役所）の山仲間の男女と一緒に北アルプスを縦走するなどしている。男性はヒマラヤ・トレッキング4回目のベテラン、独自のネットワークを駆使して

航空券の確保からコース設定など旅の手配全般をしてくれた。女性は現在 JICA（国際協力機構）に出向しており、英語も堪能でヒマラヤも 2 回目で余裕綽々。あと一人が YWV 同期の渡邊雅子（旧姓 小河）。実は彼女の夫君が私の同僚という縁で長年家族ぐるみのお付き合いがあり、ダメ元でヒマラヤに誘ったところ、同行することになった。彼女は中学の先生をしており海外旅行に頻繁に出かけているし、OB 山行で実証済みの体力もあるし、コミュニケーション能力も高く、全く問題なかった。むしろ気疲れもあつてかベテランが体調を崩したり、私も風邪気味になったりと、結果的には女性たちが元気という現状の社会の縮図を見るようであった。

（写真 5）

その 4 名にガイドが 2 名、ポーターが 2 名同行する大名旅行。ガイドのニマはシェルパ族、日本語堪能である。ゴハルは信頼できる案内役、常に先頭でいいペースメイクをしてもらった。

ポーターは 20 歳くらいの若者で、ポーターをやりながら語学等を学んでガイドを目指しているそうである。ポーターはグループに同行することなく、我々から託された荷物を次の宿泊地まで一目散に運ぶ。

ネパールは最貧国のひとつに数えられるが、若い人たちが多く、上昇志向が内在するパワーを感じる。ネパールにとってヒマラヤという観光資源は絶大で、今後も発展していくであろう。事実、アプローチする道路整備が進み、今回も悪路ながらかなり高いところまで車で行けるようになって楽をした。ただし、自然環境の保護との兼ね合いで複雑な思いも抱く。

今後はどのように折り合いをつけるのか真剣に考えなければならない時期が来るであろう。



（写真 5）同行メンバー（右から 2 番目が筆者、その左が渡邊雅子、背景の山がダウラギリ）

6 パンダと世界戦略

トランジットのため立ち寄った成都是四川省の省都であり、中国近代化の象徴の都市でもある。人口は 1,400 万人であるが、今後、それを倍にもする計画だそうである。折角だったので有名なパンダ飼育研究基地に寄った。パンダは全部で 50 頭ほど飼育されているようで、年代ごと赤ちゃん、幼児、大人、年寄りと分けて飼育されている。（写真 6）

成都外国語大学で日本語を学んだというガイドの楊氏は「中国は経済でも軍事でもなく、パンダで世界を征服する」というジョークを言っていた。中国のパンダ外交を見るとそういう側面もあるかもしれないし、何と云っても、子供パンダの愛らしい仕草に心が征服されてしまったのは事実である。



（写真 6）パンダ飼育研究基地

7 おわりに

ポカラに国立山岳ミュージアムがある。トレッキング後に立ち寄ったが、ヒマラヤ登山の歴史や昔の山道具などが展示してある。日本人ではマナスル初登頂を果たした今西壽雄氏、女性でエベレスト初登頂の田部井淳子氏、エベレスト清掃登山の野口健氏らが展示されていた。登山の古い服装や装備を見ると、先人たちのヒマラヤ登山への熱い想いとともなう艱難辛苦が迫ってくるようであった。

その敷地にはポカラの象徴でもある双尾峰マチャブチャレ（標高 6993m）を模したミニチュアがあった。信仰の山のため入山が禁止されている山である。そのミニチュアの山肌に取り付きトレッキングの無事を感謝した。（写真7） 次回は是非エベレストを観に行きたいが、そうそう好き勝手なことは出来そうもない。ほとぼりが冷めるまで、しばしおとなしくして居なければと思う。

帰国したのが1月5日（日）、自宅に帰ったのは深夜0時を回っていた。翌日からの仕事始めの1週間で、とてつもなく長い週になったのは言うまでもない。



（写真7） マチャブチャレのミニチュアを登る

■ 編集委員会から（1）

編集委員長 石垣秀敏（20期）

今回は休みの話を2題。1つ目は「山の日」。本年8月号のメルマガで伊藤さん(23)が取り上げてくれた山の日です。「海の日」があっても「山の日」が無く、寂しい思いをされていた方もおられたでしょう。今年5月に国民の祝日に関する法律が改正され16番目の祝日として「山の日」が生まれました。山や自然に親しむ我々にとっては待ちに待った祝日であり、2016年から始まります。しかし、なぜ、8月11日なのでしょう。何かの記念日でしょうか。調べても記念日らしい事は出てきません。Wikipediaには、お盆休みと連続させやすい利点があるとしてお盆前の8月12日となったが、日本航空機墜落事故がその日だったので最終的に8月11日になった、と書いてあります。休みが増えるのは嬉しいですが、山に関する記念すべき日が沢山あるのに、わざわざ何の関連も無い日にしたことがしっくりいかないのは小生だけでしょうか。

ちなみに、海の日は7月第3月曜日ですが、元は7月20日で1876年に明治天皇が東北巡幸の後、横浜港に帰着した日だそうです。まだ、日にちに根拠があるだけ良いですね。「山の日」の文句になってしまいましたが、前向きに考え8月11日を自分たちの「記念日」となるように、山と自然に親しむ活動をしたいと思います。

2つ目は「秋のシルバーウィーク」。敬老の日が9月第3月曜日となったために、敬老の日が秋分の日の前々日になると、間の日が国民の休日となり土曜日を含めると5連休になります。2009年に第1回目があってから暫くありませんが、来年2015年は右のように秋のシルバーウィークになります。しかし、その次は2026年まで待たないといけません。滅多にない大型連休ですし9月は気候も良い季節ですから、今から自然に親しむ予定でも作っておきましょう。

2015年

9月						
日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	4 5
6	7	8	9	10	11	12
13	14	15	16	17	18	19
20	21	22	23	24	25	26
27	28	29	30			

自由投稿 「HCD・友の逝去・同期会」

小久保裕之 (28期)

昨年10月、国大HCDに参加した。なぜだか、無性に、ワングルの仲間会いたくなかったのだ。

同期の仲間に連絡を取った。「面白そう！」と快諾してくれて、一緒に行くことになった。私がHCDで楽しみにしていたことは3つあった。一つ目は、ワングルの写真展、二つ目は、懇親会、三つ目は、二次会である。

写真展に行った。懐かしい写真と、山行記録、テントなどが置いてあった。そしてそこには、懐かしい友がいた。そして、先輩や後輩たちとの新しい出会いもあった。良かったことは、同じ体験をしていること。その体験があれば、今の生活はそれぞれでも、話が合う。気持ち、というか、感覚・・・に近いものを分かちあえる。写真展の会場で、あの頃、国大の学生だった頃、ワングルの一部員だった頃の空気の中に居た。

そして懇親会に参加した。

私は友松会の会員である。友松会は、横浜国大教育学部卒業生の同窓会だ。主として学校の教員の会である。友松会としてHCDに出たことは何度かある。その時は、正直、おつき合いで参加しているそんな気持ちだった。今回、ワングルOB会員としてHCDに参加した。空気が全然違う。懐かしい空気、何か、言葉にはできないものを分かち合っている、そんな実感があつた。体験を共有した仲間、山、時代は変わっても、ワングルの山行の時間・場・仲間を味わったつながりの確かなことを実感した。

そして、「みはるかす」。ワングルの先輩の音頭で、参会者皆が「みはるかす」の歌で一つになった。今までのHCDで、いろいろな団体がみはるかすの音頭を取ったのを見てきたが、今年のワングルが文句なし、一番だった。誇らしかった。

その後ほどなく、同期の坂川尚司君が逝去されたとの訃報を知った。HCDの時に、彼はどうしているだろうと思いを巡らせた友だ。なんと儚いことだろう、そして、今生きていることがとてもありがたく感じた。仲間が元気で生きていることが当たり前でなく、ありがたいことだと痛感した。

それからの28期の動きは速かった。皆、誰からともなく連絡を取り合い、友の逝去を悲しみ、そして、仲間が無事それぞれ生きていることをメールで確かめ合った。

「会おう」一人が言い出して、それが拡がり、つながり、形になった。雪の新宿で28期は集合した。語り合った。友の死を追悼した。そして、相変わらずの友、相変わらずの自分がいた。大学時代、ワングルで、山で、部室で、友の下宿で語り合い、飲んだくれ、お互いを当たり前のように感じていたあの時代に、皆でタイムスリップした。気持ちがあのときに戻る。仲間の笑顔、「こいつ、このノリだよな」という、相変わらずのその人らしさ。懐かしく、瑞々しい気持ちになれた。

ワングルの魅力は、自然と仲間、そんなことを、現役時代の総括に書いたことを今思い出している。

そして、これからも、たまには皆と会って、飲んで、語り合い、あの時の空気を肌で感じたい。

仲間と自分が今生きている。それぞれの場所で、それぞれの仕事・生活と向き合っている。時々会って語り合おうね、みんな！



■ 夏合宿壮行会報告

吉野大次郎 (2期)

本年度現役夏合宿の壮行会を横浜駅西口で開催しました。

OBは西田幹事長以下5名、現役は3年生3名と1年生4名の計7名の参加でした。

【日時・会場】2014.7.30 (水) 18:30~21:00 横浜駅西口 DORAGON 酒家 (中華)

【参加者】

OB 5名: 西田幹事長(20)、吉野会計幹事(2)、白須総務委員(17)、笹倉小屋委員(30)、親跡小屋委員(34)

現役7名: 3年生 古矢(主将)、中山(副主将)、畑(小屋委員長)

1年生 五月女(理工・建築)、塩崎(経営システム)、尾崎(理工・材料)、真壁(経営システム)

テーブルが2つにわかれてましたが、途中でOBがテーブルを交代して、全員と万遍なく話ができました。

中華料理はとてもおいしくて、おいしい、おいしいと言いながら、若人の旺盛な食欲は次々とお皿を平らげました。

1年生は15名(女子3名)もいるそうで、2年生3名、3年生7名で合計25名にもなるとか、勢いがついてきましたね。

夏合宿第1陣は12名で、8/1~7、大雪山~トムラウシ縦走+北海道見物・・・いいですね。

第2陣は6名、9月に後立山だそうです。

(ただし、1年生女子は夏合宿には参加しないと、まだ安心はできませんね)



■ 現役部員の活動紹介

副主将 中山真吾 (56期)

56期主将古矢紘基は、8月11日から9月19日までパキスタンでの植林のボランティアとバルトロ氷河のトレッキングに行ってくるため、代わりに56期副主将中山真吾が現役部員の活動紹介をさせていただきます。

今年度、OBの皆様のご協力のもと苗名小屋を活用した新歓活動、自転車活動を正式なワングルの活動に加えることにより、女子3名を含む18名(内10名が自転車活動を兼ねている)の新入部員が入りました。

また、何十年かぶりに歩荷を中心とした定期トレーニングを再開しました。

自転車活動は、苗名小屋を起点に、長野方面や日本海方面へサイクリングするのを主な活動としており、今後は活動範囲を広げていく予定です。現時点では自転車活動と山行はうまく両立できており、公式山行と自転車活動の両方に参加した部員、新たに自転車活動を始めてみようとする部員もいます。



小屋活動を楽しむ新入部員 (58期岡本)



自転車で日本海へ

山行活動としては、5月に新錬1塔ノ岳、6月にPW鳳凰三山と新錬2滝子・大菩薩縦走、7月PW富士登山と夏トレ雲取山を計画していましたが、この内PW鳳凰三山、夏トレ雲取山は悪天候のため中止に、新錬2滝子・大菩薩縦走は、途中から風雨が激しくなったため、頂上へ行くことなくエスケープすることになってしまいました。

今年度の山行はあまり天候に恵まれず非常に残念でしたが、新錬1塔ノ岳、PW富士登山は天候に恵まれ、パーティも10名前後と例年よりも増えたことにより、賑やかで楽しく行くことができました。

また、一年の内最大の行事である夏合宿には多くの部員が参加するため2回に分け、8月1-7日夏合宿1北海道大雪山旭岳・トムラウシ山縦走、9月20-23日夏合宿2五竜・鹿島槍縦走を計画しました。



新錬1塔ノ岳



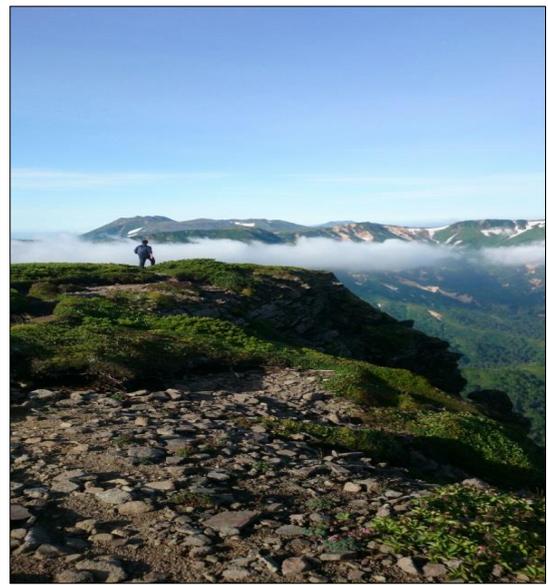
PW富士登山

夏合宿1 北海道大雪山旭岳・トムラウシ山縦走は一年生7名、二年生1名、三年生3名の計11名が参加しました。8月1日に成田を発ち新千歳空港に向かい、ガスや食料を現地調達した後バスや電車を乗り継いで旭川温泉の麓のキャンプ場へと移動したわけですが、乗り継ぎ時間に余裕が無く慌ただしいものでした。移動が終わった後、全員のザックの重さを量ってみると、エキノックスへの感染予防のための道具や飲料水、北海道の山中でも大丈夫な防寒着、3泊4日に及ぶ山行の食糧を持ち込んだためか20kgを超えました。従来の方の時よりもザックは重く、8月4日頃から天候も荒れるという予報が出ていたため、無事この山行を終えることができるかとても不安になりました。しかし、翌日8月2日は快晴で旭岳や御鉢平の絶景を楽しむことができ、ほぼコースタイム通りに旭岳温泉から白雲岳避難小屋に行くことができました。

この日の山行で特別疲れた様子の人がないこと、避難小屋に泊まっている人の話から、やはり8月4日から天候が荒れて危険な状態になることから、次の日8月3日は早めに出て行けるところまで行くということに話がまとまりました。8月3日3:00に白雲岳避難小屋を出発し忠別岳へ歩き始めました。途中の高根ヶ原付近はとても広大で暗かったため道に迷いそうでしたが、雲海から昇る朝日を拝むことが出来ました。この日も快晴で忠別岳の絶景を楽しめました。



高根ヶ原付近の雲海



忠別岳の絶景

当初の予定では忠別岳の麓の避難小屋で泊まる予定でしたが、皆の体力が持ちそうなことに加え、天候が荒れない内にトムラウシを越えたほうが良いという判断から、一気に南沼キャンプ場に向かうことを決めました。天気は良すぎるほどで強い日差しの中、狭い藪道や急峻な岩場、ひたすら続く木道を抜けようやくトムラウシ山頂に着きました。この日の行程時間は12時間にも及び、トムラウシに近づくにつれ風が強くなり寒くなってきたせいか、さすがに皆疲れた様子でした。

翌日8月4日は予定通りに起床し4:30に下山を開始しました。下山開始から1時間も経たない内に霧が始め視界が悪くなってきました。トムラウシの急峻な庭園のような岩場に霧が立ち込め、仙人が出てきそうなくらい幻想的でした。途中、道に迷いそうになりましたが、なんとか下山を完了しました。下山後、自転車班は5日に青森ねぶた祭りへ行くために北海道を離れ、他の人は各自ゆつくりと北海道を楽しみ7日に新千歳を発ちました。

全体を通して強行な日程にも関わらず、一年生が誰ひとりバテることなくついて来たことにびっくりでした。また唯一の二年生である百合野君は地図読み等で大活躍し、下級生の頼もしさを実感しました。北海道の雄大な自然を愉快的仲間たちと満喫することができ非常に満足でした。

夏合宿が終わりますとその後には小屋活動への参加やスキー等を計画しております。また今年の常盤祭(10/31~11/3)には模擬店でカレーを販売しますので是非お越し下さい。

これからも皆様のあたたかいご支援をよろしくお願いします。

(追伸) 現役の活動はHPの他twitterでも確認可能で、活動報告をほぼリアルタイムで更新しております「@ynuww」で検索して下さい。



トムラウシ山頂



下山後の打ち上げ (ジンギスカン)



北海道の海鮮に舌鼓を打つ部員 (57期百合野)

OB会費納入のお願い

会計幹事 吉野大次郎（2期）

会計幹事 松本 和之（29期）

OB会報第57号に同封しました払込取扱票は、2015年度OB会費等をお振込いただく用紙です。
ゆうちょ銀行の各店舗窓口・ATMからお振込みください。
払込手数料は5万円未満の場合、窓口130円、ATM80円です。

- ・年会費：2,000円（2015年度（2014年10月～2015年9月）の年会費）
（払込取扱票に「〇〇年度までの会費は納入済みです」という表示がある人は納入不要です）
- ・前納会費：10,000円（2015年度～2020年度の6年間の年会費前納分）
- ・寄付金：（一般、小屋）どちらかを○で囲んで
- ・最新名簿代金：500円（郵送希望者のみ）

払込取扱票を紛失した場合は、ゆうちょ銀行で用紙を貰い、下記口座番号と加入者名を記入してお振込ください。

口座番号：00290-3-2419

加入者名：横浜国立大学ワンダーフォーゲルOB会

★他の金融機関からの振込み

他の金融機関からも振り込むことができます。その場合、預金種目、口座番号は下記のようになります。
手数料は各金融機関、振込み方式によって異なりますが、3万円未満の場合は216～648円です。

銀行名：ゆうちょ銀行（9900）

店番：029

店名：〇二九店（ゼロニキュウ店）

預金種目：当座

口座番号：0002419

カナ氏名：ヨコハマコクリツダイガクワンダーフォーゲルオービー

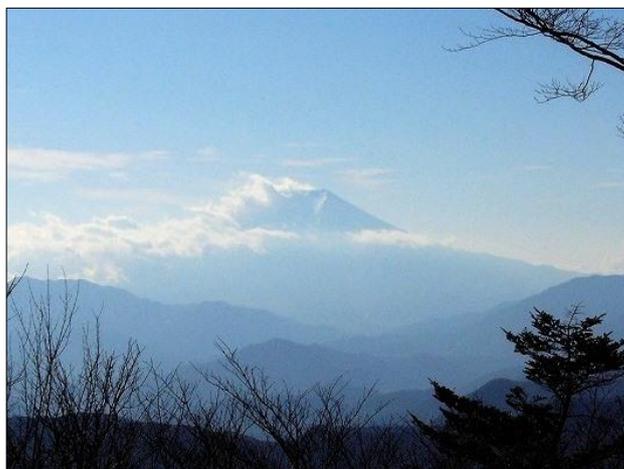
編集委員会から（2）

編集委員長 石垣秀敏（20期）

【訃報】

- ・田中裕先生（YWV 第二代部長）が2014年6月14日に逝去されました。
- ・岩科健一氏（8期）が2014年6月16日に逝去されました。

謹んでご冥福をお祈り申し上げます。



三頭山からの富士山
2012.1

編集委員会では皆様からの投稿をお待ちしています。
自由投稿コーナーの原稿、写真、スケッチ等どしどしお寄せ下さい。
宛先 石垣秀敏 (20期) gakky@s2.dion.ne.jp
成島和仁 (22期) suikyou3@m3.spacelan.ne.jp
編集にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。

YWVOB 会 会報第 57 号

発 行 行: 横浜国立大学ワンダーフォーゲル部 OB 会
発 行 日: 2014年9月20日
発 行 責 任 者: 鈴木弥栄男(9)
編 集 責 任 者: 編集委員長 石垣秀敏(20)
編 集 集: 編 集 委 員 成島和仁(22)
印 刷 所: 株式会社プリントパック 京都府向日市森本町野田 3-1